

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3870300492		
法人名	医療法人 三善会		
事業所名	グループホーム薬師谷マナー		
所在地	愛媛県宇和島市川内大字大黒田甲2101番地		
管理者	横濱和枝		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	平成19年6月5日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】 (19年5月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	9人, 非常勤8人, 常勤換算11人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	13,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,160円			

(3) 利用者の概要 (5月16日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	9名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	72歳	最高	91歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定なし	指定認知症対応型通所介護
届出なし	短期利用型共同生活介護
加算あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

素晴らしい自然に恵まれた中に立地している。利用者、スタッフ共に自然な笑顔が多く見られる。買い物、墓参り、コンサート、パチンコ等への外出のように、利用者一人ひとりへ積極的・個別に対応する姿勢が見られる。外部から、お坊さんの講話・体操の先生、音楽の先生、押し花の先生などが定期的に訪れ、日々の生活を豊かにしている。また、スタッフの研修体制及び自主的な研修からうかがえる法人代表者、ホーム長の前向きな姿勢が、ホームの質の高さを維持している大きな一因と思われる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
 前回評価に対しては、①ホーム便りの発行②個別記録の充実のための書式変更③申し送りノートスタッフ全員の確認④感染症への対策の学習⑤研修会参加後の報告体制が計画され、適切に実施されている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

スタッフ全員で記入した後、話し合っまとめている。スタッフへの自己評価に対する聞き取りでも、「充分でない点を感じた」という発言があり、自己評価に対して真剣に謙虚に取り組んでいると感じた。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

運営推進会議は2か月に一度開催されており、議事録も全家族に配布されている。出席者は家族から3~4人(開催当初全家族へ出席を呼びかけた)と、地域の方、行政、他ホームのスタッフなどである。ホーム内での利用者の役割の持ち方や、地域の自主防災組織会議への参加などについて話し合いがされ、業務に活かされている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

ホーム長とユニット主任は、家族が来た時に話を聞いている。面会の少ない方には手紙、メール、電話を利用し、家族の希望や考えを聞くようにしている。個別の内容に対しては介護計画に組み入れている。

▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

近所の方がホームに話しにきたり、散歩中に利用者・スタッフ・近所の方で自然とおしゃべりの輪ができてたりする。地域のそうじへの参加や、盆踊りへの参加も利用者の楽しみになっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 薬師谷マナー

(ユニット名) 雪輪

記入者(管理者)
氏名 横濱 和枝

評価完了日 19年 5月16日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスの説明をして、理念を話している。 (外部評価) 開設者ゆかりの地域であり、開設時より地域の協力が得られて運営されている。利用者が地域の中で明るく楽しく生活できるために、スタッフが話し合い理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ミーティング時に話して、日々取り組んでいる、 (外部評価) 「支えあい 個性かがやく 生活の場」という理念を掲示している。利用者・スタッフの明るい笑顔と、豊富で柔軟な個別対応に、理念が大いに役立っていると感じた。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ホーム便り、運営推進会議を通して、伝える努力はしている。	※	もっと多くの家族の方に参加して頂き、理解して頂けるよう取り組んで行く。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩時などに挨拶をしたり、立ち話をしたり利用者の顔を覚えてもらえるよう努めている。	※	気軽に立ち寄って頂けるよう、もっと日常的なつきあいをしていきたいと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一員として自治会、行事等に参加している。 (外部評価) 夏祭りには盆踊りを一緒に楽しみ、秋祭りには牛鬼がホームを訪れる。散歩時には利用者・スタッフ・地域の方でおしゃべりの輪ができ、ホームにも気軽に話しに来てくれる関係がある。	※	地域活動に参加する機会が少ない。参加の機会を増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホーム便り等で認知症について相談、見学等随時受け付けている。	※	ホームの行事、レク等(和尚様の講話)地域に開放して行けるよう取り組んで行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価をスタッフ全員が回覧し、ミーティングを開き改善に取り組んでいる。 (外部評価) 「充分でない点を感じた」というスタッフの話から、全員で前向きに謙虚に取り組んでいる様子が受け取れる。また、前回の外部評価に対しても、具体的に改善策を打ち出し取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度開催し、いろんな意見を頂き議事録を家族、スタッフなどに報告し、サービスに生かしている。 (外部評価) 家族、行政職員、地域の方、他ホームのスタッフにも参加してもらい、積極的に意見交換ができています。議事録も全家族に配布されている。会議で出た要望にも計画的に取り組んでいる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れ、運営、介護認定等解らない事があれば相談に載って頂いている。 (外部評価) 運営推進会議を通じて顔の見える関係ができており、現場でわからない「声」を伝えることができています。また、業務上困った時なども気軽に相談できる関係である。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等参加するよう呼びかけたり、ミーティング時に説明したりしているが十分ではない。	※	全スタッフが理解出来るように、勉強会を開いて行きたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の変化が見過ごされることがないように、スタッフ同士が注意をしている。	※	全スタッフが理解出来るように、勉強会を開いて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分説明を行い、又解約時には対応方針を相談している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員を月に1回派遣してもらい、利用者の相談、意見を聞いて頂きサービスに反映している。利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ホーム便り、変化があればその都度報告、相談している。又面会時は必ず要望を聞き、日常の様子を報告している。 (外部評価) 面会時にはホーム長や主任が必ず声をかけて様子を伝えている。また、手紙やメールを利用して面会の少ない家族にも様子を伝えている。金銭管理の報告も適切にできている。	※	金銭出納帳は見ているが、今後はサインをいただくようにしたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。又運営推進会議の参加も多く意見を言って頂き検討している。 (外部評価) 職員は家族の声を面会時に積極的に聞いている。運営推進会議にも4名ほどの家族が出席しており、要望が出る。要望に関してはスタッフで共有し、応えられるように取り組んでいる。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 不満や苦情は言い難い部分が多い。又言ってもあまり反映されない所がある。	※	現場の意見が反映されるよう働きかけていく。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 人員の配置がぎりぎり、柔軟な対応が出来ない時がある。	※	管理者がローテーションの勤務に入っていないければ、柔軟な対応が出来る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係は十分理解しているが、やむを得ず離職される時は、引き継ぎなど時間をとっている。 (外部評価) 法人間の異動はなく、ユニット間の異動も最小限に抑えている。ホーム長や主任がスタッフの話を聞くことで職場のストレスに配慮し、離職への対策の一つになっている。	※	今までにあまり入居者にダメージはないが、スタッフの離職を最小限にとどめるようにしたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は受講しやすい環境であると思う。又他のスタッフに報告し還元している。 (外部評価) 勤務扱いで研修が受けられる体制ができており、研修内容も周知され、スタッフの希望も重視されている。研修後はレポートを提出し、全員に内容を伝えている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 近隣の他のGHと協力して勉強会を立ち上げ、質の向上を図っている。 (外部評価) 地域の6か所のホームで自主勉強会を立ち上げており、多くのスタッフが参加している。同業者との交流により、ホームの質の向上や、スタッフのストレス軽減にも役立っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 時々食事会、親睦会を開いていたが全スタッフの状態の把握が十分できていなかった。	※	定期的に話し合いの場面を作って行く。又スタッフの様子を把握して悩み事がありそうなときは働きかけていく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自勉強しやすい環境にあり、又それを認めている 資格を生かした勤務態勢にしている。	※	時間にゆとりが出来、資格を生かせる環境になるよう努めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分時間をとり話を聞きケアプランに生かしている(入所時)	※	入所する前に情報収集が出来るよう取り組んでいきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分時間をとり話を聞き、プランに反映している		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分時間をとり話を聞きプランに生かしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 急に利用になることが多く馴染みになるまでは家族と協力し、本人が安心出来るよう関わっている。 (外部評価) 入居後もホームに馴染めない利用者に対しては、ご家族の協力を得て、少しでも早く安心して過ごせるように配慮している。	※	入居前にスタッフと顔なじみになれるような方法を検討することを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の気持ちを尊重し、出来ないことをさりげなくカバー出来るよう関わっている。 (外部評価) 訪問時も、利用者の提案で自己紹介が始まった。スタッフと利用者が家庭のように意見交換できおり、一緒に生活を送る関係ができています。	※	お互い協働し、穏やかに過ごせるような場面作りをしていく。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事、等家族にも連絡を取り参加を促し、又気軽に立ち寄っていただけるよう働きかけ、家族も介護に関わり、良い関係を築くように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人、家族も思いを知り、良い関係が築けるように機会を作り、働きかけている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の思いを知り、可能な限り支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が過ごせる場面作りをし、又スタッフが調整役になっている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要とされる方とは継続的に関わりを持ち、つきあいをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で話を聞き把握するように努め、又困難な場合は家族に話を聞いている。 (外部評価) 散歩中や入浴の際などに、行きたい所、買いたいもの、食べたいものなど確認している。また、不安な表情や落ち着きのない様子があるときは、積極的に関わり、気持ちの把握に努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 話を聞き把握している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で出来ること、出来ないことを知り、又心理面も考えて総合的に判断するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 関係者と話し合い、又家族からの意見も聞き本人の意向を確認しプランに反映している。 (外部評価) かかりつけ医の意見も参考にして、スタッフ全員で作成している。毎日の記録を、本人の希望が記入しやすい様に工夫し、介護計画の際に活かしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間終了する前に見直しを行い、又状態変化があった場合は見直し、新たなプランを作成している。 (外部評価) 3か月に一度、定期的に見直している。また、日常生活動作（ADL）や本人の意向、また体調に変化があった際にも計画の見直しをしている。体調の把握については月に2度の往診も役立っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に日々の様子を記録し、全スタッフが見ることが出来、プランに反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人家族の状況に応じて必要な支援に柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。 (外部評価) 利用者の個別の希望に対して積極的に支援している。受診援助はもちろん、墓参り・自宅訪問・コンサート・パチンコなど個々の希望に対してできる限り希望が叶うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 交番、公民館にホーム便りを配布し、協力して頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理美容サービス等利用している。	※	見守りボランティア、又外出時のボランティア等りようしたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)	※	解決困難事例の場合地域包括支援センターと連携を図り支援体制をとっていきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 事業所のかかりつけ医の他、利用者の希望する医療機関に受診できるよう支援している。 (外部評価) 法人の母体は病院であるが、利用者個々の選択によりかかりつけ医が決められている。週に3～4日は外来通院の支援をしている。外出が困難な方のために、歯医者への往診もある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医が脳神経外科医師であり、治療方針認知症について指示や助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置して、常に利用者の健康管理、状態変化に応じて支援が行える。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院によるダメージを防ぐために病院看護師と話し又頻回にお見舞いに行き回復状況等退院支援に結びつける。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態の変化がある事に家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援につなげている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成しており、前向きに取り組もうとしているが、本人や家族との話はまだ充分にはできていない。	※	「看取りに関する指針」の「看取りに関する職員教育」を、今後計画的に実施されることを期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意向をふまえて医師、スタッフが連携を取り、安心した最期を迎えられるよう随時意志を確認しながら、取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームに移って来られた場合、馴染みの物を持って来ていただくように。又移られた場合は情報交換を行い可能な限り訪問に行く等支援を行っている。	※	十分でなく入居、退居時までには体制が整っているよう取り組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 日々の関わり方をリーダーが点検し利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応に努めている。 (外部評価) 情報収集も形式的でなく、必要な情報を聞くようにしており、プライバシーに対する意識の高さを感じる。対応も、利用者のペースに配慮し自己決定を促し尊重している場面が見受けられる。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者に応じた言葉掛けをし、本人が納得するようにし、無理強いはいしない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の流れが出来て、スタッフの都合で時間が過ぎていく。 (外部評価) 外出や活動内容など、できる限り希望に添っている。訪問時の利用者の会話や明るい表情からも、一人ひとりの希望を考慮した生活を送っていることが感じられる。	※	入居者のペースに合わせて、希望に添って過ごせるよう心がけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 服装は本人に選んで頂き理、美容も本人の行きたい所にお連れしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節感を取り入れたり、利用者の好みを聞いたり出来ることはしていただき、食事を楽しく食べれるよう会話を楽しみながら雰囲気作りをしている。 (外部評価) 食事の準備や片付け・配膳等各自が役割を持ち、スタッフも感謝の言葉をかけている。また、食事中は楽しい会話がなされたり、食事の進まない方には個別の対応がされていた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に合わせて自由に飲まれている。 管理が必要な人は個別に対応している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 時間事に誘導したり、なるべくオムツを使わずに支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望に添って支援している。 (外部評価) 日中は毎日自由な時間に利用できる。入浴の嫌いな方には「明日は病院に行くから入浴しましょう」等、呼びかけ方法を工夫している。また、性別のプライバシーにも配慮している。	※	スタッフの数もあり、夕方から夜間は介助の必要な方は入浴できない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の時間を充実させ生活リズムを整え、環境も整えてどうしても眠れないときは、医師家族と相談して睡眠薬等検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 各々の役割が出来ている。スタッフも感謝の言葉掛けをしている。 <hr/> (外部評価) 外部から、体操の先生、歌の先生、押し花の先生、お坊さん等が定期的に訪問し、楽しい活動の時間を共有している。習字の得意な人は歌の歌詞を書く役割を持っている。	※	まだまだ入居者の活躍が出来る場面があると思う。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物をされる方、又財布の中にいつもお金を入れて安心される方もいる。一人ひとりに合わせて支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的に散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。 <hr/> (外部評価) 訪問時も午前のおやつ時間は広い前庭のテラスでお茶の時間を楽しんでいる。広い畑もあり収穫は利用者がスタッフとともにやっている。お寺参りや買い物等の個別希望にも柔軟に対応している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別に墓参りに行ったり、又弁当を持ちハイキングに行ったりしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で出来る方は自由に電話される。電話出来ない方は、電話してくださいと言われるときは支援している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 夜21.00迄は自由にしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などに参加し、取り組んでいる。	※	もう一度勉強会をしたい。言葉による抑制
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ施錠している。 (外部評価) 玄関は開放されている。食事の準備や片付け、記録をする際も、常に見守りを意識した位置で業務を行っている。利用者の「できること」を的確に把握しており、自由に散歩に行く人もいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは利用者と同じ空間で記録を書き利用者の状態を常に把握するよう努めている。夜間は見回りをし、起きたら対応出来るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状況に合わせて取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 訓練の実施、ヒヤリハットを作成し、全スタッフで共有し事故防止に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練実施し、マニュアル作成し、備えている。	※	スタッフの入れ替えがあり、又定期的に勉強会を開催していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て年に2回訓練を行っている。 (外部評価) 地域の自主防災組織の話し合いに参加している。年に2度、利用者を含めた避難訓練・消火訓練を行っている。現在2階からの避難経路としてスロープの設置を検討中である。	※	地域の消防団とも連携協力をしていく。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりのリスクについて把握しているが家族に対して説明がたりない。	※	抑圧感のない生活がリスクが生じることを説明していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一人ひとりのバイタルチェックをし、状態把握して異常の早期発見に努め異常があればDrと連携し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルがあり、確認出来るようになっている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄状態を把握し、適度な運動、食物、水分摂取等取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き各自される方もあり、されない方もある。	※	嫌がられる方もあるがもう少し積極的に支援していく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 状態の悪い方、普段と違うかたのみチェックしている。 (外部評価) 献立はその日の担当者が立てている。食事量の記録は必要に応じ実施している。スタッフに栄養士がおり、定期的に栄養バランスをグラフにして確認している。	※	普段から一人ひとりの水分摂取状況を把握していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 情報収集し、対策をたて実践していく。	※	マニュアルがあるがもっと使いやすくしていく。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的に冷蔵庫の中の整理、消毒。まな板、包丁布巾等漂白消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花を植え、庭にベンチを置き近所の方も立ち寄られるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感がある飾り付けをし、又入居者の写真を飾ったりしている。 (外部評価) 広々とした居間で、ゆったりと過ごせている。浴室・トイレも広く清潔感がある。庭が広くあちこちにベンチもおいてあり、周りの景色もすばらしく野鳥のさえずりが驚くほど近くに感じる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室があり、玄関先にはソファがあり、庭にはベンチがあり、自由に思い思いに過ごせる空間がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好みの飾り付け、馴染みのダンス、仏壇を持ってきて居る方もある。 (外部評価) 居室には仏壇や家族の写真、また使い慣れた家具があり、自宅での生活を感じさせる。エアコンや換気扇、緊急連絡装置もついている。入り口には手作りの押し花の表札が飾られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度計、湿度計があり各自気をつけている。又入居者の状態に合わせて調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、バリアフリーで安全を重視している。又イスの高さも調整し立ち上がりやすくしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室、解らない方は表示をしたり、自立してもらえるよう支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭にベンチを置き又畑があり自由に楽しむ事が出来る。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 全ての利用者の (自己 ②利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ②数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) ③家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 薬師谷マナー

(ユニット名) 岩戸

記入者(管理者)
氏名 横濱 和枝

評価完了日 19年 5月16日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 地域密着型サービスの説明をして、理念を話している。 (外部評価) 開設者ゆかりの地域であり、開設時より地域の協力が得られて運営されている。利用者が地域の中で明るく楽しく生活できるために、スタッフが話し合い理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ミーティング時に話して、日々取り組んでいる、 (外部評価) 「支えあい 個性かがやく 生活の場」という理念を掲示している。利用者・スタッフの明るい笑顔と、豊富で柔軟な個別対応に、理念が大いに役立っていると感じた。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ホーム便り、運営推進会議を通して、伝える努力はしている。	※	もっと多くの家族の方に参加して頂き、理解して頂けるよう取り組んで行く。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩時などに挨拶をしたり、立ち話をしたり利用者の顔を覚えてもらえるよう努めている。	※	気軽に立ち寄って頂けるよう、もっと日常的なつきあいをしていきたいと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一員として自治会、行事等に参加している。 (外部評価) 夏祭りには盆踊りを一緒に楽しみ、秋祭りには牛鬼がホームを訪れる。散歩時には利用者・スタッフ・地域の方でおしゃべりの輪ができ、ホームにも気軽に話しに来てくれる関係がある。	※	地域活動に参加する機会が少ない。参加の機会を増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホーム便り等で認知症について相談、見学等随時受け付けている。	※	ホームの行事、レク等(和尚様の講話)地域に開放して行けるよう取り組んで行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価をスタッフ全員が回覧し、ミーティングを開き改善に取り組んでいる。 <hr/> (外部評価) 「充分でない点を感じた」というスタッフの話から、全員で前向きに謙虚に取り組んでいる様子が受け取れる。また、前回の外部評価に対しても、具体的に改善策を打ち出し取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1度開催し、いろんな意見を頂き議事録を家族、スタッフなどに報告し、サービスに生かしている。 <hr/> (外部評価) 家族、行政職員、地域の方、他ホームのスタッフにも参加してもらい、積極的に意見交換ができています。議事録も全家族に配布されている。会議で出た要望にも計画的に取り組んでいる。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れ、運営、介護認定等解らない事があれば相談に載って頂いている。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議を通じて顔の見える関係ができており、現場でわからない「声」を伝えることができています。また、業務上困った時なども気軽に相談できる関係である。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等参加するよう呼びかけたり、ミーティング時に説明したりしているが十分ではない。	※	全スタッフが理解出来るように、勉強会を開いて行きたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の変化が見過ごされることがないように、スタッフ同士が注意をしている。	※	全スタッフが理解出来るように、勉強会を開いて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分説明を行い、又解約時には対応方針を相談している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員を月に1回派遣してもらい、利用者の相談、意見を聞いて頂きサービスに反映している。利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) ホーム便り、変化があればその都度報告、相談している。又面会時は必ず要望を聞き、日常の様子を報告している。 (外部評価) 面会時にはホーム長や主任が必ず声をかけて様子を伝えている。また、手紙やメールを利用して面会の少ない家族にも様子を伝えている。金銭管理の報告も適切にできている。	※	金銭出納帳は見ているが、今後はサインをいただくようにしたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。又運営推進会議の参加も多く意見を言って頂き検討している。 (外部評価) 職員は家族の声を面会時に積極的に聞いている。運営推進会議にも4名ほどの家族が出席しており、要望が出る。要望に関してはスタッフで共有し、応えられるように取り組んでいる。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 不満や苦情は言い難い部分が多い。又言ってもあまり反映されない所がある。	※	現場の意見が反映されるよう働きかけていく。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 人員の配置がぎりぎり、柔軟な対応が出来ない時がある。	※	管理者がローテーションの勤務に入っていないければ、柔軟な対応が出来る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 馴染みの関係は十分理解しているが、やむを得ず離職される時は、引き継ぎなど時間をとっている。 (外部評価) 法人間の異動はなく、ユニット間の異動も最小限に抑えている。ホーム長や主任がスタッフの話を聞くことで職場のストレスに配慮し、離職への対策の一つになっている。	※	今までにあまり入居者にダメージはないが、スタッフの離職を最小限にとどめるようにしたい。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修は受講しやすい環境であると思う。又他のスタッフに報告し還元している。 (外部評価) 勤務扱いで研修が受けられる体制ができており、研修内容も周知され、スタッフの希望も重視されている。研修後はレポートを提出し、全員に内容を伝えている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 近隣の他のGHと協力して勉強会を立ち上げ、質の向上を図っている。 (外部評価) 地域の6か所のホームで自主勉強会を立ち上げており、多くのスタッフが参加している。同業者との交流により、ホームの質の向上や、スタッフのストレス軽減にも役立っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 時々食事会、親睦会を開いていたが全スタッフの状態の把握が十分できていなかった。	※	定期的に話し合いの場面を作って行く。又スタッフの様子を把握して悩み事がありそうときは働きかけていく。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 各自勉強しやすい環境にあり、又それを認めている 資格を生かした勤務態勢にしている。	※	時間にゆとりが出来、資格を生かせる環境になるよう努めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分時間をとり話を聞きケアプランに生かしている(入所時)	※	入所する前に情報収集が出来るよう取り組んでいきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分時間をとり話を聞き、プランに反映している		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分時間をとり話を聞きプランに生かしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 急に利用になることが多く馴染みになるまでは家族と協力し、本人が安心出来るよう関わっている。 (外部評価) 入居後もホームに馴染めない利用者に対しては、ご家族の協力を得て、少しでも早く安心して過ごせるように配慮している。	※	入居前にスタッフと顔なじみになれるような方法を検討することを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者の気持ちを尊重し、出来ないことをさりげなくカバー出来るよう関わっている。 (外部評価) 訪問時も、利用者の提案で自己紹介が始まった。スタッフと利用者が家庭のように意見交換できおり、一緒に生活を送る関係ができています。	※	お互い協働し、穏やかに過ごせるような場面作りをしていく。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事、等家族にも連絡を取り参加を促し、又気軽に立ち寄っていただけるよう働きかけ、家族も介護に関わり、良い関係を築くように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人、家族も思いを知り、良い関係が築けるように機会を作り、働きかけている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の思いを知り、可能な限り支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士が過ごせる場面作りをし、又スタッフが調整役になっている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 必要とされる方とは継続的に関わりを持ち、つきあいをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で話を聞き把握するように努め、又困難な場合は家族に話を聞いている。 (外部評価) 散歩中や入浴の際などに、行きたい所、買いたいもの、食べたいものなど確認している。また、不安な表情や落ち着きのない様子があるときは、積極的に関わり、気持ちの把握に努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 話を聞き把握している。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で出来ること、出来ないことを知り、又心理面も考えて総合的に判断するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 関係者と話し合い、又家族からの意見も聞き本人の意向を確認しプランに反映している。		
			(外部評価) かかりつけ医の意見も参考にして、スタッフ全員で作成している。毎日の記録を、本人の希望が記入しやすい様に工夫し、介護計画の際に活かしている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間終了する前に見直しを行い、又状態変化があった場合は見直し、新たなプランを作成している。		
			(外部評価) 3か月に一度、定期的に見直している。また、日常生活動作（ADL）や本人の意向、また体調に変化があった際にも計画の見直しをしている。体調の把握については月に2度の往診も役立っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に日々の様子を記録し、全スタッフが見ることが出来、プランに反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人家族の状況に応じて必要な支援に柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
			(外部評価) 利用者の個別の希望に対して積極的に支援している。受診援助はもちろん、墓参り・自宅訪問・コンサート・パチンコなど個々の希望に対してできる限り希望が叶うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 交番、公民館にホーム便りを配布し、協力して頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 訪問理美容サービス等利用している。	※	見守りボランティア、又外出時のボランティア等りようしたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)	※	解決困難事例の場合地域包括支援センターと連携を図り支援体制をとっていきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 事業所のかかりつけ医の他、利用者の希望する医療機関に受診できるよう支援している。 (外部評価) 法人の母体は病院であるが、利用者個々の選択によりかかりつけ医が決められている。週に3～4日は外来通院の支援をしている。外出が困難な方のために、歯医者への往診もある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医が脳神経外科医師であり、治療方針認知症について指示や助言をもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置して、常に利用者の健康管理、状態変化に応じて支援が行える。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院によるダメージを防ぐために病院看護師と話し又頻回にお見舞いに行き回復状況等退院支援に結びつける。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態の変化がある事に家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援につなげている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成しており、前向きに取り組もうとしているが、本人や家族との話はまだ充分にはできていない。	※	「看取りに関する指針」の「看取りに関する職員教育」を、今後計画的に実施されることを期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意向をふまえて医師、スタッフが連携を取り、安心した最期を迎えられるよう随時意志を確認しながら、取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームに移って来られた場合、馴染みの物を持って来ていただくように。又移られた場合は情報交換を行い可能な限り訪問に行く等支援を行っている。	※	十分でなく入居、退居時までには体制が整っているよう取り組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 日々の関わり方をリーダーが点検し利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応に努めている。 (外部評価) 情報収集も形式的でなく、必要な情報を聞くようにしており、プライバシーに対する意識の高さを感じる。対応も、利用者のペースに配慮し自己決定を促し尊重している場面が見受けられる。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者に応じた言葉掛けをし、本人が納得するようにし、無理強いはいはしない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の流れが出来て、スタッフの都合で時間が過ぎていく。 (外部評価) 外出や活動内容など、できる限り希望に添っている。訪問時の利用者の会話や明るい表情からも、一人ひとりの希望を考慮した生活を送っていることが感じられる。	※	入居者のペースに合わせて、希望に添って過ごせるよう心がけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 服装は本人に選んで頂き理、美容も本人の行きたい所にお連れしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節感を取り入れたり、利用者の好みを聞いたり出来ることはしていただき、食事を楽しく食べれるよう会話を楽しみながら雰囲気作りをしている。 (外部評価) 食事の準備や片付け・配膳等各自が役割を持ち、スタッフも感謝の言葉をかけている。また、食事中は楽しい会話がなされたり、食事の進まない方には個別の対応がされていた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況に合わせて自由に飲まれている。 管理が必要な人は個別に対応している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 時間事に誘導したり、なるべくオムツを使わずに支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望に添って支援している。 (外部評価) 日中は毎日自由な時間に利用できる。入浴の嫌いな方には「明日は病院に行くから入浴しましょう」等、呼びかけ方法を工夫している。また、性別のプライバシーにも配慮している。	※	スタッフの数もあり、夕方から夜間は介助の必要な方は入浴できない。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の時間を充実させ生活リズムを整え、環境も整えてどうしても眠れないときは、医師家族と相談して睡眠薬等検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 各々の役割が出来ている。スタッフも感謝の言葉掛けをしている。 (外部評価) 外部から、体操の先生、歌の先生、押し花の先生、お坊さん等が定期的に訪問し、楽しい活動の時間を共有している。習字の得意な人は歌の歌詞を書く役割を持っている。	※	まだまだ入居者の活躍が出来る場面があると思う。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物をされる方、又財布の中にもいつもお金を入れて安心される方もいる。一人ひとりに合わせて支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 日常的に散歩に出かけたり、買い物に行ったりしている。 (外部評価) 訪問時も午前のおやつ時間は広い前庭のテラスでお茶の時間を楽しんでいる。広い畑もあり収穫は利用者がスタッフとともに行っている。お寺参りや買い物等の個別希望にも柔軟に対応している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別に墓参りに行ったり、又弁当を持ちハイキングに行ったりしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で出来る方は自由に電話される。電話出来ない方は、電話してくださいと言われるときは支援している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 夜21.00迄は自由にしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などに参加し、取り組んでいる。	※	もう一度勉強会をしたい。言葉による抑制
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間のみ施錠している。 (外部評価) 玄関は開放されている。食事の準備や片付け、記録をする際も、常に見守りを意識した位置で業務を行っている。利用者の「できること」を的確に把握しており、自由に散歩に行く人もいる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは利用者と同じ空間で記録を書き利用者の状態を常に把握するよう努めている。夜間は見回りをし、起きられたら対応出来るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人ひとりの状況に合わせて取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 訓練の実施、ヒヤリハットを作成し、全スタッフで共有し事故防止に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練実施し、マニュアル作成し、備えている。	※	スタッフの入れ替えがあり、又定期的に勉強会を開催していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署の協力を得て年に2回訓練を行っている。 (外部評価) 地域の自主防災組織の話し合いに参加している。年に2度、利用者を含めた避難訓練・消火訓練を行っている。現在2階からの避難経路としてスロープの設置を検討中である。	※	地域の消防団とも連携協力をしていく。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 一人ひとりのリスクについて把握しているが家族に対して説明がたりない。	※	抑圧感のない生活がリスクが生じることを説明していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 一人ひとりのバイタルチェックをし、状態把握して異常の早期発見に努め異常があればDrと連携し対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルがあり、確認出来るようになっている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄状態を把握し、適度な運動、食物、水分摂取等取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨き各自される方もあり、されない方もある。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 状態の悪い方、普段と違うかたのみチェックしている。 (外部評価) 献立はその日の担当者が立てている。食事量の記録は必要に応じ実施している。スタッフに栄養士がおり、定期的に栄養バランスをグラフにして確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 情報収集し、対策をたて実践していく。	※	マニュアルがあるがもっと使いやすくしていく。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的に冷蔵庫の中の整理、消毒。まな板、包丁布巾等漂白消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に花を植え、庭にベンチを置き近所の方も立ち寄られるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感がある飾り付けをし、又入居者の写真を飾ったりしている。 (外部評価) 広々とした居間で、ゆったりと過ごせている。浴室・トイレも広く清潔感がある。庭が広くあちこちにベンチもおいてあり、周りの景色もすばらしく野鳥のさえずりが驚くほど近くに感じる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室があり、玄関先にはソファがあり、庭にはベンチがあり、自由に思い思いに過ごせる空間がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の好みの飾り付け、馴染みのタンス、仏壇を持ってきて居る方もある。 (外部評価) 居室には仏壇や家族の写真、また使い慣れた家具があり、自宅での生活を感じさせる。エアコンや換気扇、緊急連絡装置もついている。入り口には手作りの押し花の表札が飾られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度計、湿度計があり各自気をつけている。又入居者の状態に合わせて調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すり、バリアフリーで安全を重視している。又イスの高さも調整し立ち上がりやすくしている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室、解らない方は表示をしたり、自立してもらえるよう支援している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭にベンチを置き又畑があり自由に楽しむ事が出来る。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 全ての利用者の (自己 ②利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ②数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	1 ほぼ全ての家族と (自己 ②家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 ②数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)